

評価計画				自己評価		次年度への改善策	学校関係者評価	
重点目標	具体的目標	具体的取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題		評価	意見
多様な人 と関わる 場の設定	地域と密着した 魅力ある教育活 動の推進	高校魅力化コンソーシアム構築と運営、まち ごとキャンパス構想運用、地域との協働によ る教育活動（総合的な探究の時間、まちキャ ン、ふるさと学）の充実、地域・保護者への 情報提供と連携	評価アンケート 魅力化アンケー ト	B	○1・2年の総合的な探究の時間やふるさと学は、地域 の方、外部の方の協力を得ながら内容を充実させること ができた。 ・コンソーシアムが構築してスタートしたばかりでまだ 十分機能しているとは言えない。	▷1年次のグループ探究から2年次への個人探究という流 れを計画している。また、まちごとキャンパス学習の進め 方も見直しを図りたい。 ▷「まちごとキャンパス構想」を部分改訂しつつ、「教育創 世コンソーシアム島根中央」が活性化するよう、協働チー ムの体制を構築し働きを強めたい。	B	・高校生との交流について地 域の方からも肯定的な意見 があり、今後も継続して欲し い。また、部活動以外の時間 の使い方を大切にして欲し い。 ・地域との交流活動への橋渡 しはすべてが学校をするの ではなく地域の方と協力し ながら進めて欲しい、またコ ンソーシアムの協働チーム にも役割を期待したい、 ・県内定住を増やす県の施 策、町の施策の中で高校の役 割とは何かを明確にして、小 中高大の連携を取りながら 取り組んで欲しい。
	学習と両立した 部活動や体験活 動の充実	生徒会主体の学園祭・球技大会運営、委員会 活動・部活動充実、地域交流活動・ボランテ ィア活動参加支援	評価アンケート 部活動加入率、 大会成績 魅力化アンケー ト	B	○生徒会執行部が中心となって生徒主体の学校行事運 営ができた。 ○部活動に加入せずに地域で活動する生徒が増えた年 度であった。	▷コロナ禍でさまざまな制限があるが、学校行事の良さを 失わないことと十分な感染防止対策とのバランスに配慮 した取り組みを進めたい。 ▷学校行事や部活動を通しての地域交流だけでなく、地域 交流活動に個人参加する生徒への支援も継続する。		
	多様な地域から の生徒受け入れ による学校の活 性化	後援会と連携した生徒募集活動、広報活動 （学校案内作成、オープンスクール、中学校 訪問、中高連絡会、学校見学者対応）、県内 生徒確保に向けた取り組み、寮関係者の連携 強化、寮内美化活動	評価アンケート 出願者数 生徒募集活動実 績	B	○中学校訪問、オンライン説明会、オープンスクールな どにより、郡内中学校への生徒募集活動を強化した。 ○寮務部教職員、専任舎監、炊事員、コーディネーター、 役場職員が連携して寮運営に取り組んだ。特に寮内美化 には力を入れて取り組んだ。	▷引き続き、後援会と連携しながら募集活動に努める。特 に部活動以外の魅力アップを図りPRしたい。 ▷寮運営において保護者の協力体制構築の仕掛けを考えて いる。		
豊かな人 間性と社 会性の育 成	集団生活を通し た規範意識の醸 成と基本的生活 習慣の確立	授業規律（授業開始・準備）の共通理解と徹 底、生活指導に関する共通認識・共通指導、 分掌・学年部・部顧問との連携、美化意識向 上・保健委員会活動、身だしなみ指導、生徒 主体の寮生活規律の向上	評価アンケート 出席率、皆勤率	B	○昨年度一部の学級で見られた落ち着かない雰囲気は 改善された。 ・学年を問わず一部の生徒に、軽はずみな行動、自分勝 手な行動が見られる場面もあり、粘り強く継続的な指導 が必要であるが、指導に素直に従う生徒も多い。	▷担任、部顧問など生徒に関わる教職員が情報共有を密に し教職員全体で生徒指導を進めていくことが重要である。 ▷寮においては、面談を通して個々の寮生の思いを大切に しながら、規律ある寮生活と寮自治の強化、安心安全な寮 運営につとめたい。	B	・生徒支援、生徒対応におい て外部機関との連携がある ことは評価できる。 ・一部の生徒にのみ指導支援 が集中することがないよう バランス良く対応にあたっ て欲しい。 ・教員の自己評価が低いと感 じる部分もある。もっと自信 を持って取り組んで欲しい。 ・校内の良い雰囲気を作るた めに時には厳しい姿勢での 指導も必要である。
	互いの人権を尊 重する意識と態 度の育成	学校行事・学級活動を通した仲間づくり、人 権教育HR、人権教育講演会、教職員研修に よる生徒理解、学年集会・生徒集会（いじめ 防止、命の大切さ指導）	評価アンケート 魅力化アンケー ト	B	○1年学年会で人権やコミュニケーションスキルに関 するホームルーム活動を実施し、人間関係づくり、仲間 づくりに一定の成果があった。 ○探究学習など協働性を求められる場面で積極的に動 ける生徒がいる。	▷個別面談等による生徒の抱える課題の早期発見と粘り強 く寄り添う姿勢を継続したい。 ▷人権講演会、情報モラル講座など各講演会や学年集会等 の実施により全体指導もより良いものにしたい。		
	適切な指導・支 援につながる校 内体制の構築	生徒サポート委員会・教職員研修による情報 共有、感染症対策、健康診断・健康観察、学 校医・SCとの連携、学年通信発行、就学支 援制度等の情報提供と支援	評価アンケート	A	○教職員全体の情報共有に努め、課題を抱える生徒に複 眼的組織的に対処できた。 ○課題を抱える生徒への対応において保護者や関係機 関と連携を持つことができた。	▷引き続き生徒の健康状態の把握と感染症対策をすすめて いく。 ▷教職員と保護者、関連機関との連携を継続する。		
自ら未来 を切り拓 く力の育 成	対話的・主体的 で深い学びを通 した学力の育成	家庭学習強化、授業評価アンケート、主体 的・対話的授業の実践、教育課程編成、ユニ バーサルデザインの視点、授業参観・授業研 修、図書館利用の充実、図書館環境整備	評価アンケート 学習時間調査 魅力化アンケー ト	C	・授業内でのICT機器を効果的に活用できる場面が増 えたが、教員のスキルアップにはまだ課題が多い。 ・オンライン課題も含め家庭学習の質量が継続的課題で ある。 ○昨年度に続き図書貸出数が増加した。また、授業での 図書館活用の場面がかなり増えた。	▷R4入学生から一人一台端末購入となる。新教育課程開始 の学年であり、各教科の授業と評価及び効果的なICT活 用などに重点をおいて研究授業・授業互見を実施する。 ▷学習時間調査を継続し、実態把握と学習習慣の確立に努 めるとともに、課題の内容も工夫したい。 ▷図書委員会活動を活発にしたい。	B	・学習に取り組む姿勢、態度 の育成は小中学校までの学 習習慣も大切であり、その観 点においても小中学校と高 校との連携が重要である。 ・本校に進学したことに対す る満足度を示す数値が示さ れているが、生徒自身の力で 自分たちが良いと思える学 校にしていけることが大切で ある。 ・就職した卒業生のようすか ら高校生活での頑張りが良 くわかる。個々の生徒に合わ せた指導を継続し、全体の底 上げを図ってもらいたい。
	自己実現に向け て自ら考え行動 する力の育成	大学・企業訪問、進路集会、進路ガイダンス・ 講演会、先輩講話、面接・小論文・プレゼン 指導、進路希望調査、補習・模試、公務員試 験対策、進学ゼミ	評価アンケート 進路実績	B	○面接・小論文・プレゼン指導が、推薦入試、就職試験 を受験した生徒の進路実現につながった。 ○情報発信の充実をはかるため保護者向けの動画配信、 進路だよりの発行回数増加を実現した。 ・大学訪問、企業訪問などの対面活動は実施が困難。	▷生徒向け進路ガイダンスの回数を増やす。 ▷教職員の進路指導スキル、特に小論文指導の技量向上を さらに図るとともに生徒向けの小論文対策も充実する。 ▷難関校合格を目標とする進学ゼミの活動形態には工夫の 余地がある。引き続き良い方法を模索したい。 ▷就職・専門学校希望者の補習のあり方は工夫が必要。		
	一人一人の将来 を見通したキャ リア教育の推進	高大連携推進、探究学習の構築と指導方法の 確立、3年間を見通したキャリア教育計画、 学年段階に応じた進路学習、進路検討会・研 修会、業者説明会による情報収集、オンライ ンを活用した情報発信、コース選択支援（説 明会・個別面談）	評価アンケート 魅力化アンケー ト	B	○進路指導部、学年会と連携を重ね、概ね予定していた 進路指導計画を実行できた。特に学年別進路集会は充実 した内容で実施できた。	▷進路指導部、各学年会、他分掌の連携を強化し、綿密な 計画立案と実施によって3年間を見通したキャリア教育 の質を向上したい。 ▷新学習指導要領に則った教育課程編成と並行してコース 再編の検討に着手する。		

